

第10回八峰町社会福祉大会の開会あいさつ

平成27年10月22日
「ファガス」 13:30～

大きな節目となります「第10回八峰町社会福祉大会」を開催いたしましたところ、皆様には大変お忙しい中、このように多数ご出席をいただきましてありがとうございました。まずもって心から感謝を申し上げます。

また、本日はご来賓として、町当局からは伊藤副町長様、町議会からは芦崎議長様、秋田県からは大信田山本福祉事務所長様にご出席をいただいております。後ほどごあいさつを頂戴することとしておりますが、公務ご多忙中のところ出席していただきまして誠にありがとうございました。

また、本大会の席上におきまして、八峰町における地域福祉の増進に寄与された方々の内、特にその功績が顕著な方々やその活動に実績があった方々に対し、表彰状や感謝状を贈呈することとしております。今回表彰される皆様のこれまでのご努力とこれまでの活動に対しまして深く敬意を表しますとともに心からお祝いを申し上げます。本当におめでとうございました。引き続きなお一層のご尽力とご指導をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

さて、八峰町における高齢化の動向をみてみますと、30年前の昭和60年には16%であり、20年前の平成7年には23%、10年前の平成17年には32%、そして先般発表された今年7月1日現在では43.3%となっています。10年ごとに、16、23、32、43%というように、ビックリするようなスピードで進んでおります。今大会の開催要綱には国の人口推計を参考に2030年ごろと書きましたが、確実にそれよりも前に高齢化率50%以上という「超高齢社会」が出現すると思えます。

また、少子化も急速に進んでおり、30年前までには毎年100人を大きく超える子どもたちが生まれ、また10年前までは小学校が6校ありましたが、ここ数年は1年間に生まれる子どもの数が八峰町全体で20数人から30人くらいとなっており、また小学校も来年の4月からは2校ということになります。私たちは今、極端に子どもが少ない「超少子社会」に直面しており、この傾向はさらに強まっていくものと思えます。

こうした「超高齢社会」と「超少子社会」を一緒に迎えているような地域においては、すべての高齢者の方々がいつまでも元気に、それこそ生涯現役で、地域の担い手としても活躍できるようにしていくことが重要であります。そのためには、必要なことはいろいろあると思えますが、何よりも健康が第一であり心と体の健康づくりが大切であるという考えから、本大会では、「笑いヨガティーチャー」の伊藤晴美先生に基調講演をお願いしたところであります。笑い与健康との関わりについてタメになる有意義なお話を伺えるものと思っております。

一方、高齢化の進展に伴う高齢者等の社会的孤立の問題や認知症問題、さらには今年度からスタートした生活困窮者自立支援法の取組など、地域における福祉課題はますます増大かつ多様化していくことが予想されます。今後ともこうした方々をできるだけ早く発見するためのネットワークを一層充実していくとともに、こうした方々の社会的課題や生活的課題をいち早く解決するための取組が大切になっていくものと思えます。

引き続き町当局のご指導をいただきながら、また本日もご出席の様々な地域福祉分野で活躍されている方々のお力もお借りしながら、力を合わせて、住んでいる皆さんが「住み慣れたところで安心して誇りを持って暮らせる」ような八峰町の実現に向けて頑張ってまいりたいと考えております。

また本日は社協職員による寸劇も予定しております。「みんなの笑顔大好き」というタイトルだそうですが、皆さんにも大いに楽しんでいただければと思います。そして本大会が私たち福祉関係者の絆をさらに深めるとともに、様々な地域の問題や地域の課題により一層一丸となって取り組んでいくキッカケとなれば大変幸いです。

結びに、八峰町における地域福祉の発展と、本日も臨席の皆様のご健勝、今後のご活躍を心からご祈念申し上げまして開会に当たってのあいさつといたします。

本日は誠にありがとうございました。